TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

管理運営時代における物流インフラストラクチャーのインセンティブ設計

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-06-27
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 小川, 雅史
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/1450

［課程博士］（博士論文審査及び最終試験の結果要旨）

学生氏名：小川　雅史
博士論文題目：管理運営時代における物流インフラストラクチャーのインセンティブ設計

博士論文審査：
学生から提出された博士論文について、公開発表会が平成 29 年 2 月 10 日に行われ、審査委員と学生の間で質疑応答が繰り返しなされ、博士論文としての質を十分に確保しているとの結論に至った。
本研究は、重要なインフラストラクチャー（以下、インフラ）として、特に物流面の中心となる港湾と高速道路に関する分析を行ったものである。物流インフラにおける政策のトレンドは、単なる建設から既存ストックの効率的な管理運営に移ってきている。また、民営化を伴う上下分離政策が採用され、2 主体を通じてサービス供給されるケースが一般化している。
その中での物流インフラの管理運営の効率化という問題は、プリンシパルとエージェント間の情報の非対称性下におけるインセンティブ設計のあり方の問題と捉えることができる。本論文では、第 1 に、港湾と高速道路のインフラサービス供給をプリンシパル＝エージェント関係の視点で分析し、インセンティブ設計の観点から、コミットメントとしてのソフトな予算制約問題、情報公開の前提としての企業会計導入効果に関して定量的・実証的に検証した。第 2 に、経済理論と実証の両面から、プリンシパルとエージェントの間で締結される契約を、外部から評価する方法を提示した。
これらの成果は、データの比較的少ない分野において、一定程度の精度をもつ客観的分析を展開した点で優れており、港湾の分析と高速道路の分析の間にやや不整合がみられる等の課題があるものの、今後の経済学分野のみならず、交通工学の発展にも大きく貢献する優れた研究といえる。
以上の内容から、学生から提出された博士論文は、国内外の研究の水準に照らし、各研究分野における学術的意義、新規性、独創性及び応用的価値を有しており、博士の学位に値することを審査委員一同確認した。

最終試験の結果要旨：
最終試験は平成 29 年 2 月 10 日に行われた。審査委員一同出席の下、学生に対して、博士論文の内容について最終確認のための質疑応答を行い、その内容は十分であった。一方、専門知識については公開発表会当日の質疑応答時や予備審査時でのディスカッションを含め十分であると審査委員一同確認した。
学術論文は 3 編が第一著者として公表済み(小川雅史『海運経済研究』第 48 号、pp.73-82、2014 年、小川雅史・寺田一薫『交通学研究』第 58 号、pp.137-144、2015 年、小川雅史『交通学研究』第 59 号、pp.181-188、2016 年)であることを確認した。
加えて国際会議において英語で発表しており、英語の学力については問題ないと判断した。
上記を含め、講演発表は国際会議 1 回、国内学会 3 回である。学術論文(日本海運経済学会『海運経済研究』)では国際交流賞を受賞していることを確認した。
合同セミナーについて、規定の学習時間および出席回数を満たしていることを確認した。
大学院海洋科学技術研究科が指定した研究者倫理教育を修了していることを確認した。
以上から、学生について博士論文審査、最終試験とも合格と判定した。